



J-PARC Photo Book

J-PARC フォトコンテスト作品集 2020-2018

J-PARC Photo contest 2020-2018

はじめに	1
Introduction	
J-PARC フォトコンテスト 2020	5
J-PARC Photo contest 2020	
J-PARC フォトコンテスト 2019	17
J-PARC Photo contest 2019	
J-PARC フォトコンテスト 2018	29
J-PARC Photo contest 2018	



平素より、J-PARC センターの運営に関しまして格別のご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

J-PARC では、2012 年から「フォトコンテスト」というイベントを開催してまいりました。職員やユーザーの方々から寄せられる J-PARC 施設内で撮られた写真の中から、最優秀賞を含む 10 作品程度を選出し、表彰するものです。J-PARC 内の審査員に加え、2019 年度からは、東海村在住のプロの写真家・及川隆史さん、2020 年度からは、起業家であり画廊のオーナーでもある磯崎寛也さんを特別審査委員にお迎えして、より専門的な視点を加えた審査を行なっています。

募集テーマは至って単純で、J-PARC 施設の中で「目を見張るような機器や、研究の過程や成果で発生した美しい画像、又は施設で機器を操る生き活きとした人物など」としています。

J-PARC は「宇宙・物質・生命の謎に迫る、巨大な実験施設」であり、「大強度陽子加速器研究施設」という呼び名からも、「大きい」「強い」「重厚」というイメージが一般的かと思います。しかし、寄せられたフォトコンテストの応募作品は、無駄がなく必然性に裏打ちされた実験装置の対称性や、世界をリードする機器と向かい合う人間の息づかい、そして宗教的とも言える光と影が織りなす静謐など、数々の思いも掛けない瞬間を切り取って見せてくれます。

受賞作品は、グリーティング・カードやアニュアル・レポートなどの広報素材に使用し、また J-PARC 研究棟の正面玄関から 2 階のアトリウムに通じる階段の両側に一年間展示され、毎年更新されていきます。つまり、放っておくと一年で忘れ去られてしまう運命にあります。

ある時、これまでの作品群を眺めていたところ、「このまま忘れ去られるにはもったいなさすぎる」「押し売りでもいいから、J-PARC のハッとする瞬間を、もう少しみなさんの記憶に留めてもらいたい」という声が、(どこからか)聴こえてきました。そこで、この度、これまでの作品を収めた写真集を編集するに至りました。2018 年度から 2020 年度分まで、3 年分収録し、2020 年度分には、特別審査員のお二人の講評も採録しております。

J-PARC をよくご存知の方にも、よくご存知ない方にも、大型加速器施設の意外な側面を記憶に留めていただき、施設を身近に感じる一助になることを祈っています。

最後になりますが、新型コロナウイルスの勢いが、いまだ人類の行く末に暗い影を落とし続けている今、自然科学の進展が少しでも人類の明るい未来を照らすことができるよう、J-PARC は今後も精進を続けて参りたいと思います。

令和 3 年 3 月 吉日
J-PARC センター長
齊藤 直人

We would like to express our sincere gratitude for your continued understanding and support regarding the operation of the J-PARC Center.

J-PARC has been holding an event called "Photo Contest" every year since 2012. From the photographs taken in the J-PARC facility, which are mainly taken by staff and users, about ten works including "the Best Picture of the Year" are selected and commended. In addition to the judges from J-PARC, we have invited two special judges for more professional perspective; Mr. Takashi Oikawa, a professional photographer living in Tokai Village from 2019, and Mr. Hiroya Isozaki, an entrepreneur and owner of the gallery from 2020.

The assigned theme of the picture is very simple, and the picture should show "a spectacular device, a beautiful image generated by the research process and results, or a lively person who operates the device at the facility, etc." in the J-PARC facility.

The general image of J-PARC would be "large," "strong," and "heavy," because J-PARC is a "huge experimental facility that approaches the mysteries of space, matter, and life" and "high-intensity proton accelerator research facility" after all. However, the submitted works capture and show many unexpected and unexplored moments of the facility, such as the symmetry of the experimental equipment backed by completeness and necessity, the breathing of scientist facing the world's leading equipment, and almost religious tranquility of light and shadow.

The award-winning works have been used as a material for public relations such as greeting cards and annual reports, and exhibited for one year on both sidewalls of the stairs from the front entrance of the J-PARC Research Building, updated every year. In other words, they are destined to be forgotten after one year of exposure to users, visitors, and staff members.

The other day, when I was looking at the works so far, I heard voices from somewhere,

"It's too pity to be forgotten..."

"J-PARC's surprising moments should be remembered a little bit longer..."

Therefore, we have decided to compile a photo book containing the works from 2018 to 2020, and in 2020, we have also recorded the extremely valuable comments of the two special judges.

We hope these beautiful works will be remembered as unexpected aspects of the Large Accelerator Facility by people, and will help increasing people's intimacy to the facility of J-PARC.

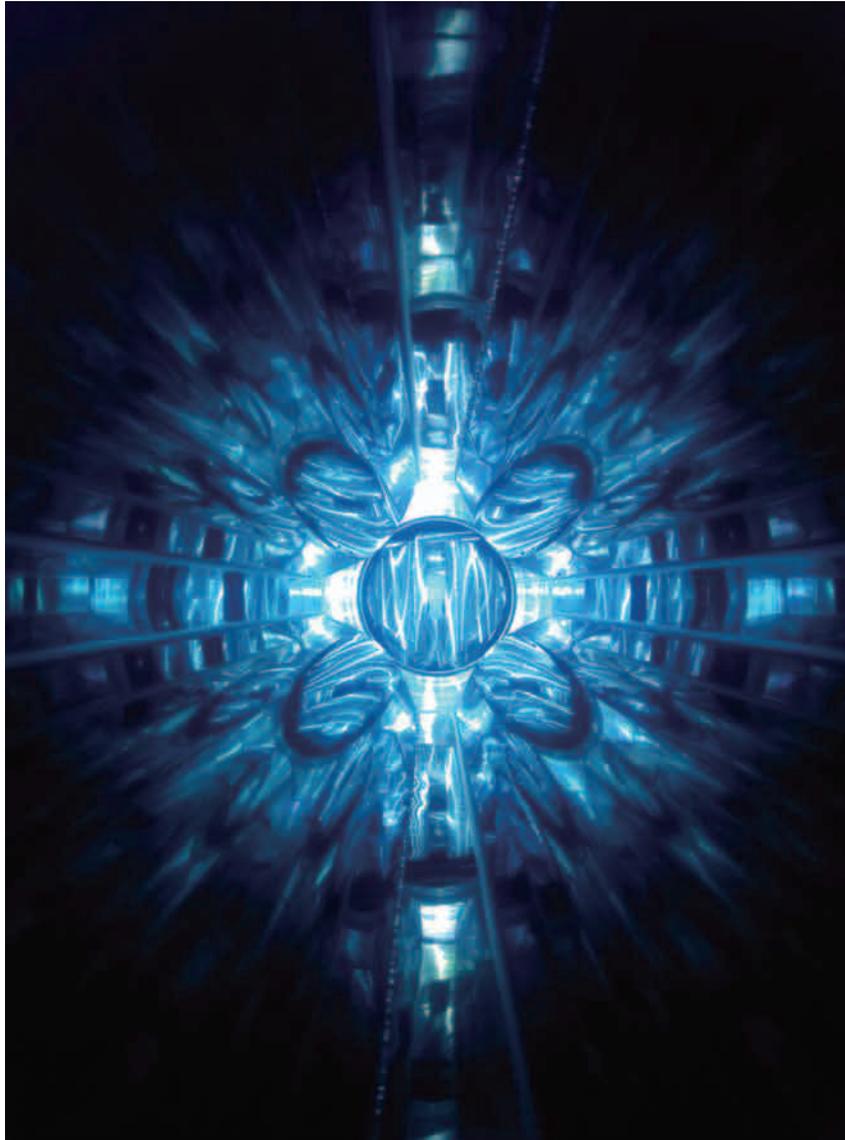
Last but not least, while new coronavirus continues to cast a dark shadow on the future of entire humankind, we would like to make every effort to illuminate the future more brightly with the progress of science produced at J-PARC.

March, 2021

J-PARC Director

Naohito SAITO

2020



最優秀賞

足立 泰平 / Taihei Adachi

ミュオンセクション / Muon Science Section

ミュオンビームラインの花形ビームダクト内で反射する光が作った光景を青い保護フィルム越しに撮影

講評

及川

深みのある色合い、画面中央から周辺にかけての光のグラデーション、そして造形の美しさが見事に調和したインパクトのある写真です。見る人を写真の奥まで引き込む力を持った素晴らしい作品に仕上がっています。

磯崎

この美しさの秘密は、キリスト教世界のシンメトリーな調和と、怪しく光るデコラティブな金属の表面への恐怖の、絶妙な融合にあります。聖なるものへの憧れと恐れを同時に表象化しています。誰もがH・R ギャーのゴシック世界、そして映画「ターミネーター」の恐怖を思い出すでしょう。現代人が未来的なものを思い描くときに避けては通れないアーキタイプ（元型）のようなものを感じます。

下流から上流を覗く

Beautiful view from the downstream

優秀賞

北岸 純子 / Junko Kitagishi

広報セクション / PR Section

リニアックは下流から見ても美しい。

@リニアックトンネル下流部から



講評 及川

前ボケを活かした奥行き表現により現場の空気感が伝わってきます。その現場を知らない人が見ても、音や匂いを感じ取ることのできる力を持った作品だと思います。

磯崎

作家の人間性や優しさが伝わってくる灰々とした作品。色の選び方、ピントとぼかしが絶妙です。青を中心に濃い色の作品が多い中で、パステルを基調とした柔らかさが際立っています。最初に見た時、地下鉄の女性専用車両を思い出したのは僕だけでしょうか。柔らかい草に覆われた丘に向かう、緩やかな坂道のような、そんなフェミニンなフィールを感じます。湿った土の匂いがします。もうすぐ細雨が降るのでしょうか。

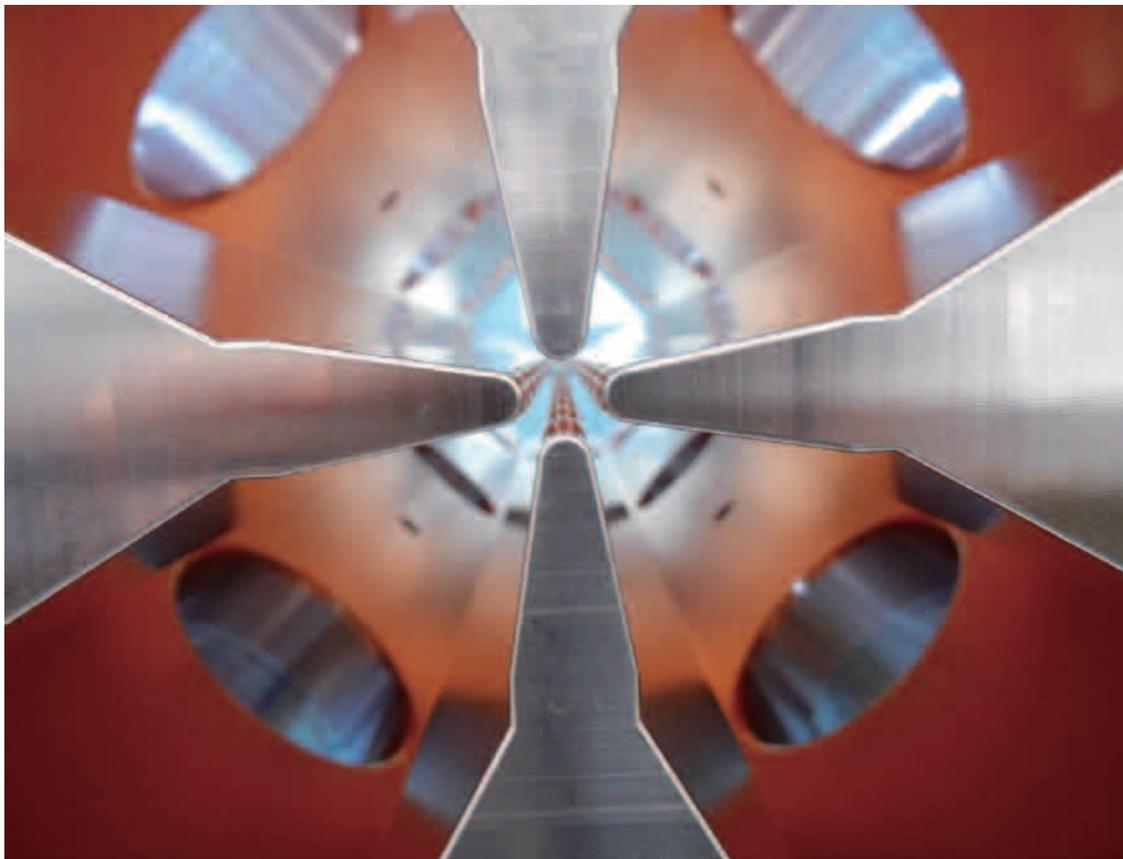
高周波四重極加速器 RFQ

Radio-frequency quadrupole, RFQ

優秀賞

大谷 将士 / Masashi Ohtani

加速器第七セクション / Accelerator Section VII



RFQ の中身。J-PARC 始まりの加速器であり、陽子やイオン加速に用いられ、近年はミューオンの加速にも用いられた。

講評 及川

シンプルで安定した構図とポップな色調によって気持ちの良い写真に仕上がっています。タイトルのつけ方に工夫があると、さらに印象深い作品になったと感じます。

磯崎

中心に向かって迷いなく進んでいく直進的合理的な世界には、昨今ある種のノスタルジーすら感じてしまいます。この作品にはそれを取り囲むように回転する天井、そして華やかなダンスが見えてきます。茶色が効果的に使われていて、周囲を取り囲む楕円もまるでアンリ・マチスの「ダンス」のようです。J-PARC の始まりの加速器だと書いてありました。

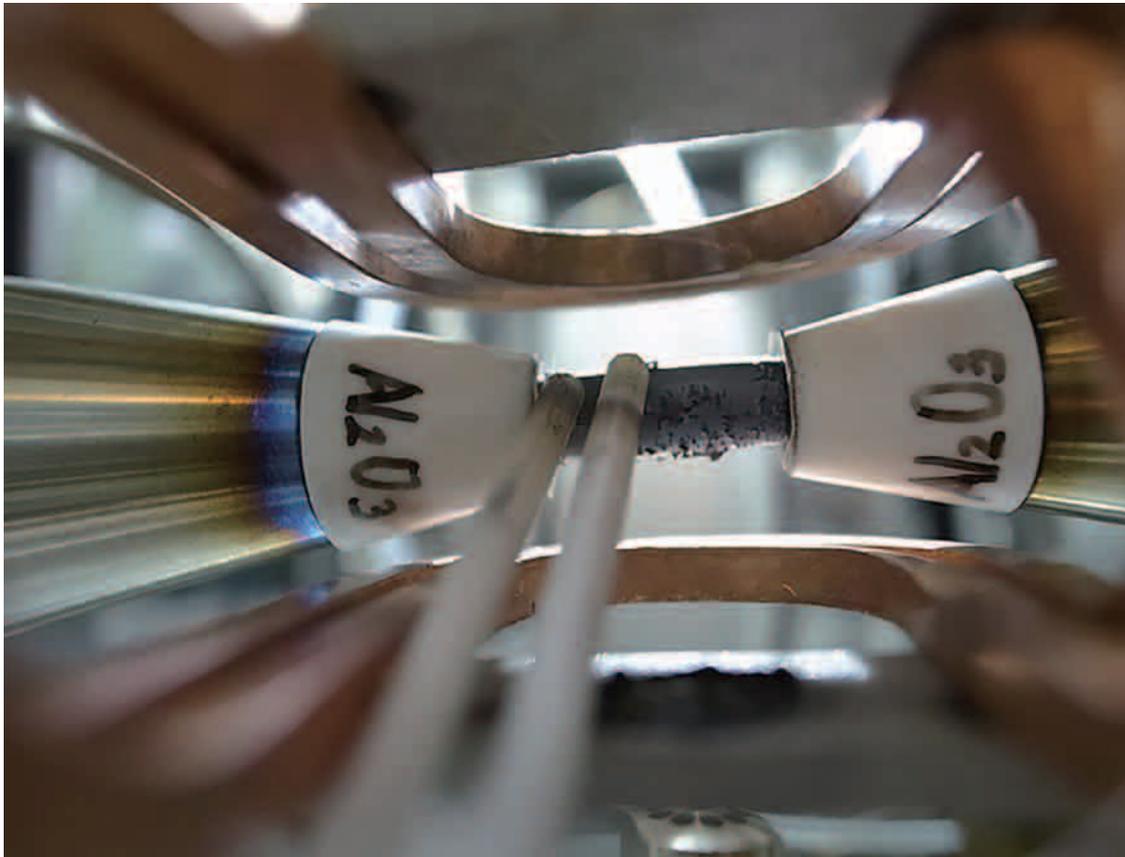
コイルの隙間から覗く 実験試料

Looking into the experimental sample through the
gap in the coil

佳作

ハルヨ ステファヌス / Stefanus Harjo
中性子利用セクション / Neutron Science Section

高温下で圧縮変形実験が終わった試料の写真。上下に高周波加熱コイルに挟まれた鉄鋼の試料をコイル部の裏側から撮りました。



講評 及川

写真下部の像の流れから動きも感じさせ、見る人の視線を一点に集める効果を発揮した作品です。

磯崎

コイルのディテールへのフェティッシュなこだわりと金属が醸し出す様々な表情、セクシュアルな感覚がユニークです。

匠と弟子

Takumi and deshi (master and disciple)



佳作

ハルヨ ステファヌス / Stefanus Harjo

中性子利用セクション / Neutron Science Section

TAKUMI 実験装置で高温変形試験機の調整運転中の写真。スタッフ同士が議論しながら力を出し合って新しい装置の設置と調整運転を行なっている様子です。

講評 及川

人物の写真の応募が少ない中での貴重な作品です。人物に動きがあったり表情が読み取れたりするとより良い写真になったと思います。

磯崎

タクミという名前の実験装置と実際の匠の言葉遊び。匠の背中と、金属板の対比が美しいです。機械を擬人化する感覚が日本的と感じました。なぜか倉田百三の「出家とその弟子」を思い出しました。



佳作

田中 裕久 / Hirohisa Tanaka
関西学院大学大学院理工学研究科
/ Kansei Gakuin University

大阪でシンチといえば東京の銀座と同様、高級ラウンジで美しい女性が待っています。東海のシンチレーション・カウンター、女性の影の向こうには、匠が棲息しているらしい…

講評 及川

独特の視点で面白味のある作品です。ダイナミックに表現された主役と控えめな脇役の対比が絶妙な構図となっています。

磯崎

人間がピンボケして実態がなく、まるで幽霊のようであり、機械と人の立場が反転している視点が面白いです。ケーブルの曲線におそらく女性の脚線美を重ねているのでしょう。僕も大阪の新地には随分ご無沙汰です。

検出器が見ている

Line of sight from the detector

佳作

北岸 純子 / Junko Kitagishi
広報セクション / PR Section

実験フロアに設置前の真っ新な検出器が置いてありました。

@MLF ミュオンエリア



講評 及川

画面中央の楕円から覗かれているような印象のシンプルで落ち着いた作品です。もう一回りトリミングするとより強い印象を与える写真になると思います。

磯崎

スタンリー・キューブリック監督の「2001年宇宙の旅」の人工知能ハルのようなレトロフューチャーのホラーを感じます。機械に囲まれて日々過ごしている人々のある種の気分が垣間見れて面白いですね。ヨハン・シュトラウスの「美しく青きドナウ」が聞こえてきます。

1 MW 運転中の ミュオン生成標的

Muon production target at 1-MW operation

佳作

的場 史朗 / Shiro Matoba

ミュオンセクション / Muon Science Section

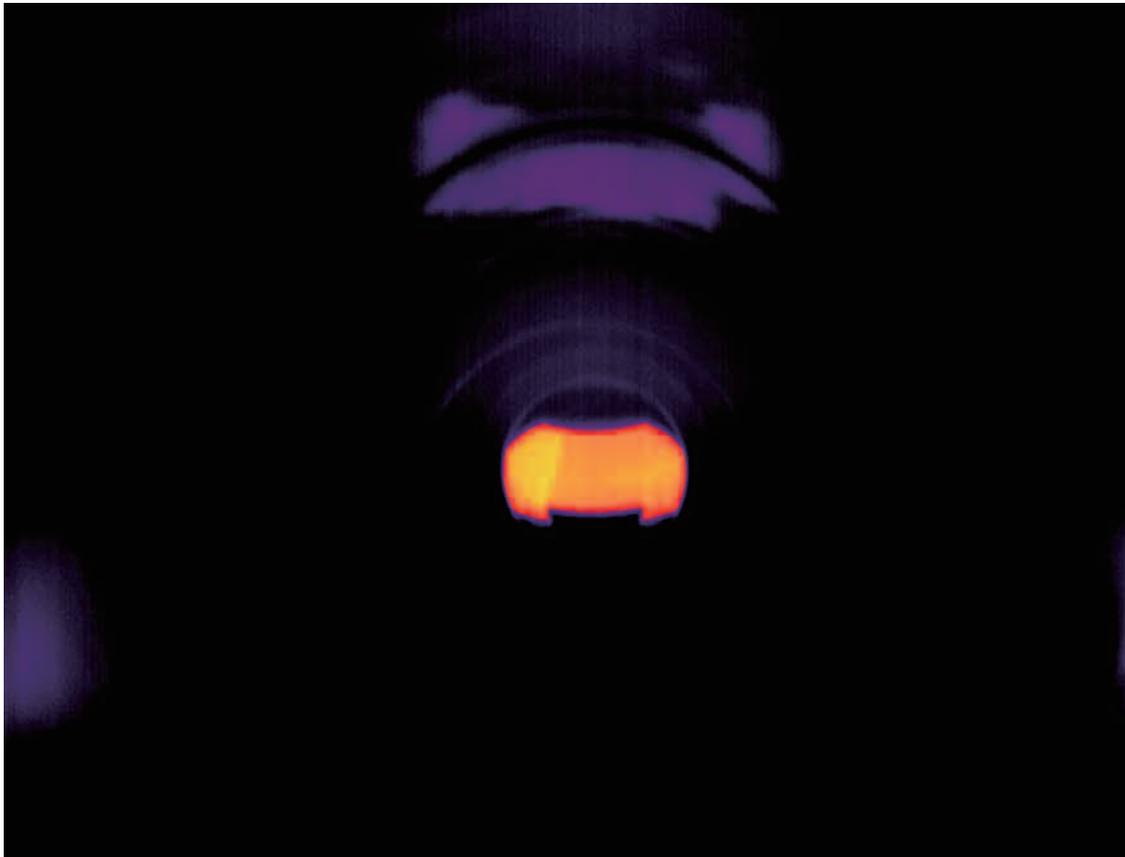
2019年夏期作業にてビームラインに設置した人工衛星搭載用の耐放射線赤外カメラにてミュオン生成標的としては世界で初めて運転中に撮影されたミュオン生成標的の温度分布画像です。1MW運転時の画像から、三分割の線（タテの線）とビームスポット（中心から右側に伸びる明るい帯の線）がコントラスト良く撮影されている画像を選びました。ビームダクト内部からの反射が紫の輪として映っています。

講評 及川

幻想的な雰囲気醸し出した作品です。荒れた画質と多少のブレが良い方向に作用して作品の魅力を高めています。

磯崎

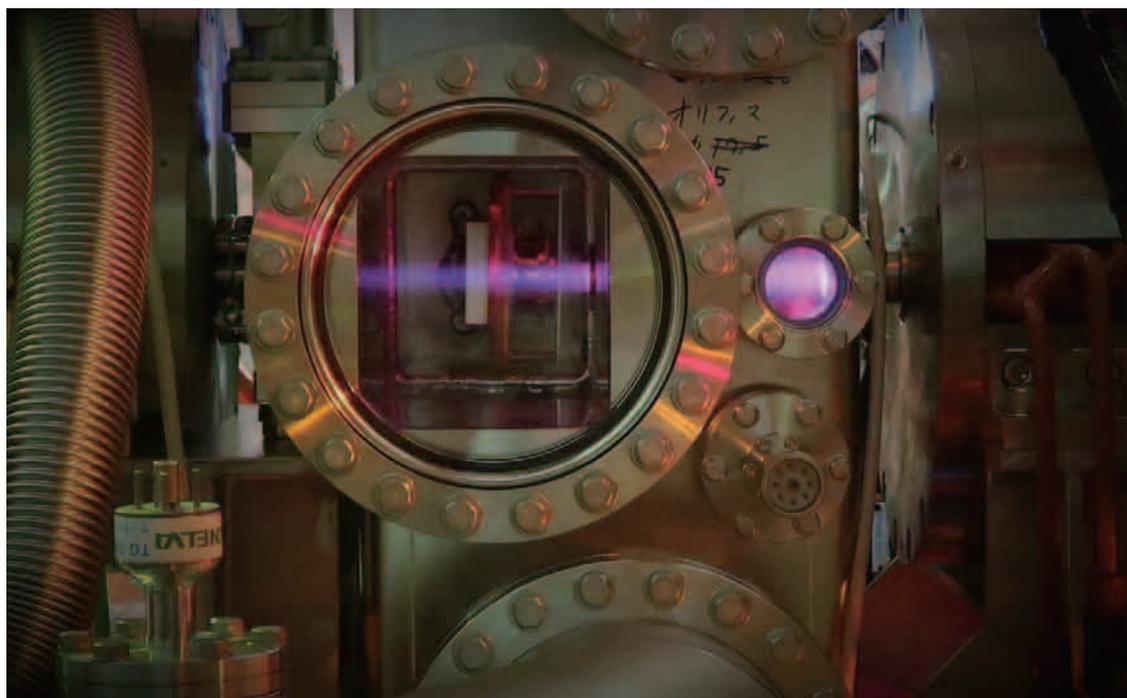
ミュオンが生まれた瞬間の温度分布画像ということですが、三分割の線とビームスポットに、僕はある種の聖なる存在を感じてしまいます。紫の反射光を背景にしたことも効果的。マーク・ロスコを彷彿とさせる抽象表現主義的な作品は個人的には1番の好み。



佳作

柴田 崇統 / Takanori Shibata

加速器第七セクション / Accelerator Section VII



J-PARC のスタート地点であるイオン源から引き出される負水素イオン (H^-) ビームを撮影しました。写真の右側がイオン源側で、イオン源の近くではプラズマを点けるために入れた水素ガスが多く残っていて、それがビームと衝突することで赤紫色 (656.3nm のスペクトル) の発光が見えます。とはいえ、ビーム 1 発では光が弱くほとんど見えないので、実験室を真っ暗にして 5 分間 (7500 発分) の露光撮影をすることで、ビームを直接捉えることが出来ました。使用したのはコンパクトデジカメですが、Bluetooth によるリモート露光撮影が可能で、イオン源の高電圧フェンス内にカメラをセットして外から撮影することが出来ました。

講評 及川

赤紫色の光が効果的に表現され、全体の色味に気持ちの良いコントラストを与えています。周囲の情報量をもっと減らすとさらにインパクトのある写真になったと思います。

磯崎

古い宇宙船や潜水艦を彷彿とさせます。重機と戦いの匂い。スターウォーズ。窓の厚み、ゴツイ金属部品、その奥行きが暗い帝国を思わせます。突然現れるピンクの光は、ジェダイによる解放でしょうか。Bluetooth によるリモート露光というテクニックも評価できます。

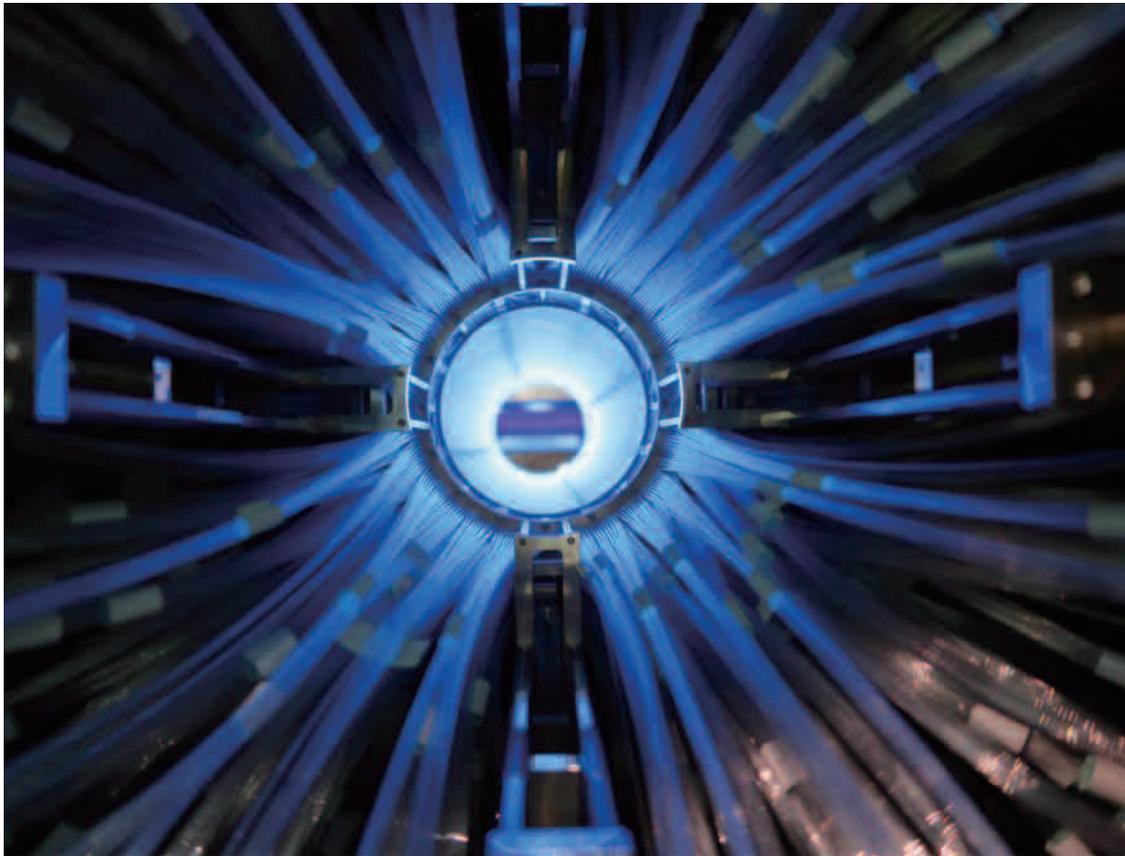
ファイバートラッカー

Fiber tracker

佳作

三輪 浩司 / Kouji Miwa

東北大学大学院理学研究科 / Tohoku University



ハイペロンと陽子の散乱断面積を測定する実験をハドロンホールのKL 8 ビームラインで行っていたが、実験終了にあたり検出器の分解をしていたときに撮影した写真。シンチレーションファイバーが円筒状に配置されており、手前には読み出しのために分割させている。ブラックライトを用いてファイバーが光っている様子を撮影したもの。

講評 及川

スポットによる光の効果と艶やかな色味が印象深い写真です。単純になりがちな画面構成の中で右下の赤茶色部分が味付けとして効いています。

磯崎

シンチレーションファイバー、ファイバートラッカー、J-PARC の設備にはなんともサイバーパンクなネーミングが多いですね。ある種の詩を感じます。ウィリアムギブソンの「ニューロマンサー」を彷彿とさせます。白い筒の奥に噛み締めた唇が見えます。拘束されたアンドロイドの存在を感じます。

2019

最優秀賞

槇田 康博 / Yasuhiro Makida

低温セクション / Cryogenics Section

ヘリウムタンク開放点検中の写真



講評 及川

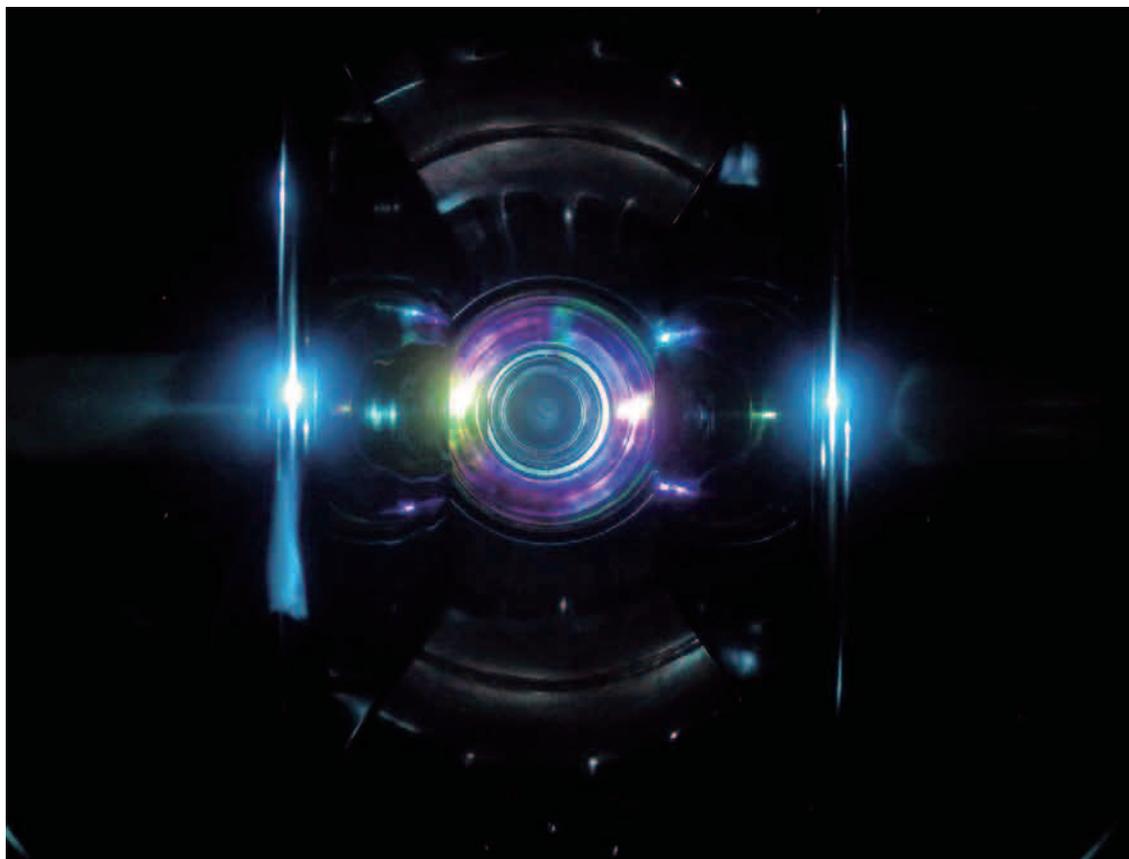
情報量が少な目なシンプルさが作業者の姿を強調したインパクトの強い写真となって表現されています。自然界では通常ありえない上方に伸びる影が非日常感を演出し、写真にスパイスを効かせている点も好感がもてます。

優秀賞

足立 泰平 / Taihei Adachi

ミュオンセクション / Muon Science Section

MLFのミュオンビームライン内部。静電セパレーターの放電によって色がついた真空容器内側を、青い表面保護フィルムを通して撮影した。



講評 及川

宇宙空間を想像させる光と色が効果的に表現された作品です。暗部が縮まったことにより光彩がより強調されています。スクエアで構成された構図は心地よい安定感も出ています。

中性子実験試料の アライメント

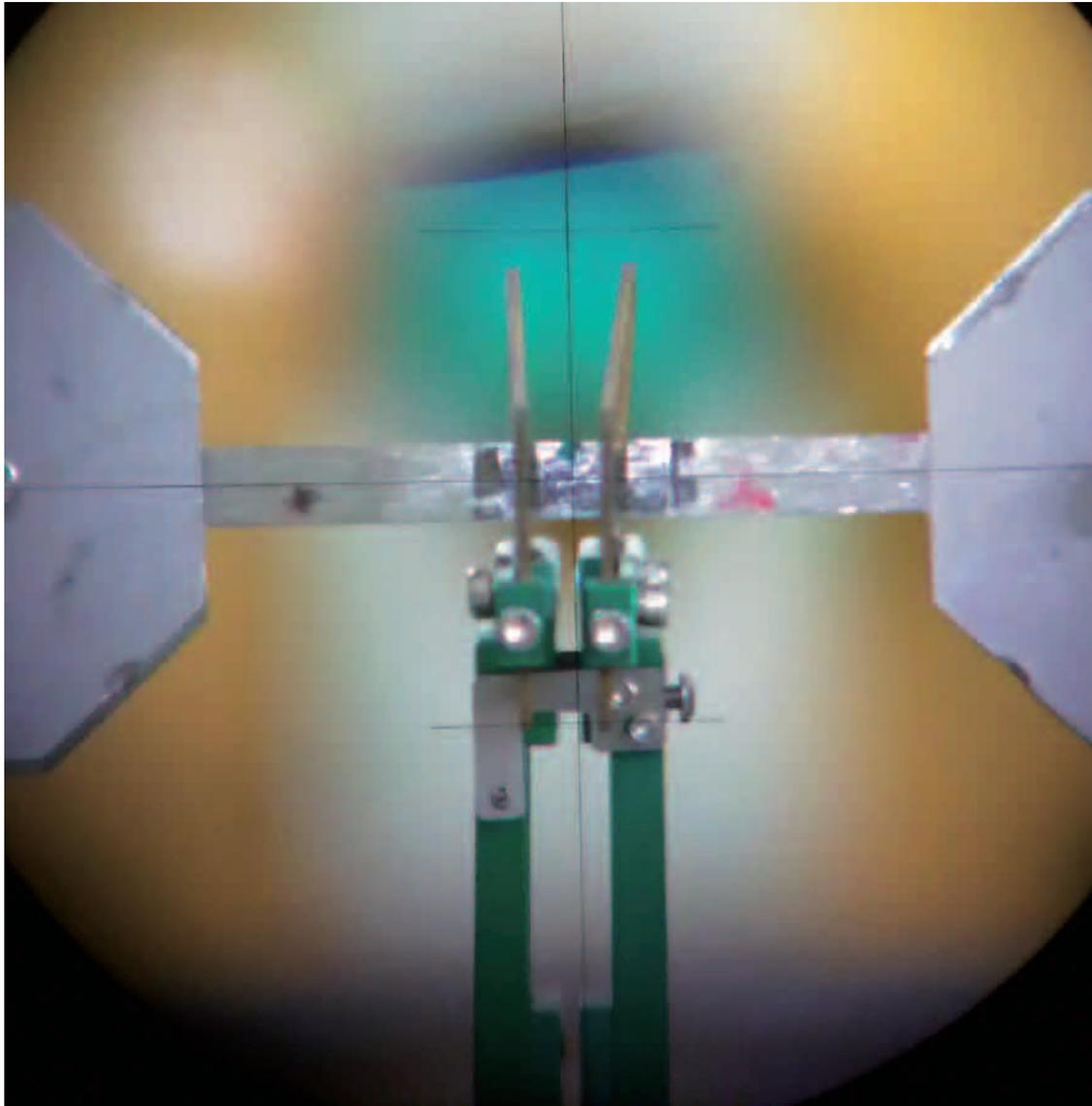
Aligning sample for a neutron experiment

優秀賞

ハルヨ ステファヌス / Stefanus Harjo

中性子利用セクション / Neutron Science Section

先端鉄鋼材料の変形中その場中性子回折実験を行うときの試験片アライメントの様子である。



講評

及川

パステル調の色合いが印象深い作品です。ファインダースクリーン越しに撮影されたと思われる、その効果が不思議な雰囲気を醸し出し良い写真に仕上がっています。

高温変形

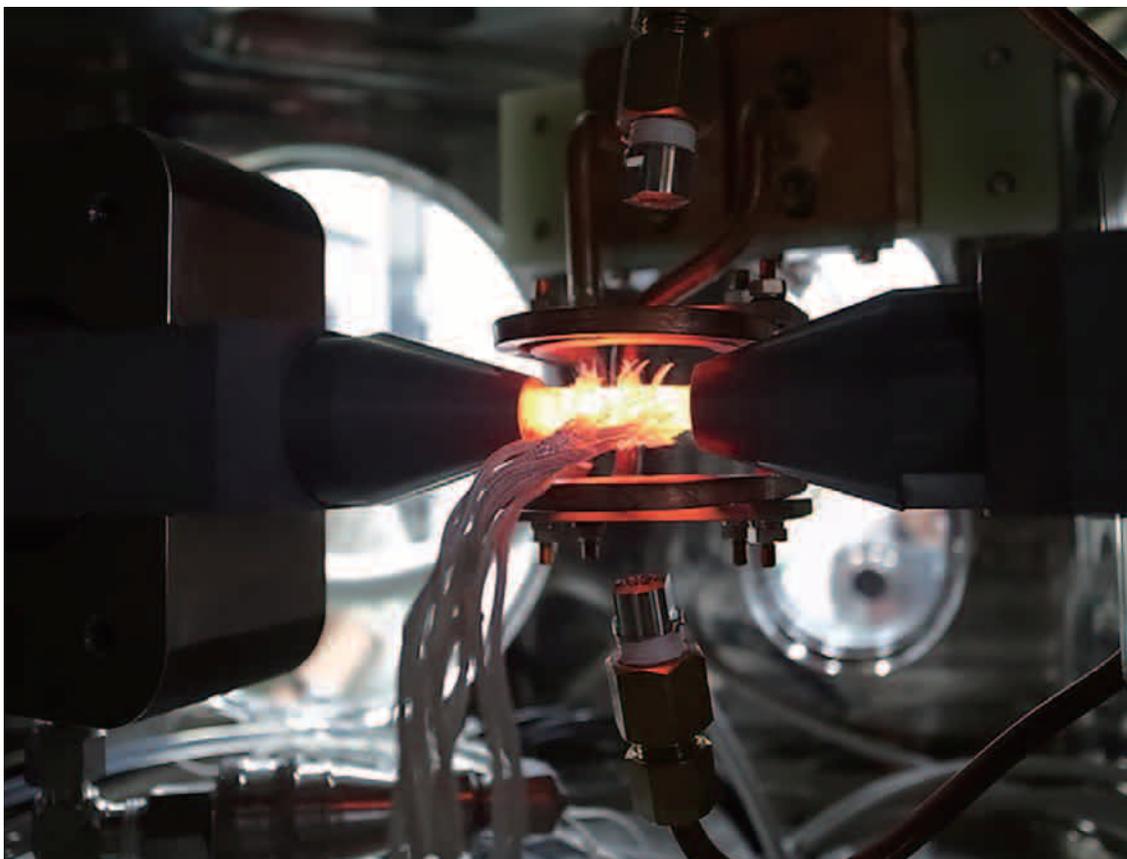
Deformation at high temperature

佳作

ハルヨ ステファヌス / Stefanus Harjo

中性子利用セクション / Neutron Science Section

1000℃で加熱された鉄鋼の圧縮変形（その場中性子回折実験）



講評 及川

主役の赤色部分はもちろん、その周りからも熱さを感じとることができる写真です。画面左右をカットした「タテ位置」の写真にすると更に赤色が強調できたと思います。

佳作

魚田 雅彦 / Masahiko Uota

加速器第五セクション / Accelerator Section V



MRのアポートビームラインの途中から上流側を覗くと取り出しセプタムまで写る。光源をレーザーポインタとする事で30GeV陽子ビーム500kWの代わりに0.37eV光子ビーム1mWがダクト内を往復している。

講評 及川

大胆でシンプルな構図により気持ちの良い作品となりました。グリーンとゴールドの色のバランスが良く、安心して見られる写真です。あと何かしらの $+a$ の情報が加わると更に印象強い作品になるでしょう。

3 GeV ビームの分岐点

The branch point from RCS to 3-N BT and 3-50 BT
(White balance adjustment)

佳作

魚田 雅彦 / Masahiko Uota

加速器第五セクション / Accelerator Section V

RCS 周回リング (右)、取り出しビームライン 2
本 (中央が MR 行き 3-50BT ライン、左が MLF 行
き 3NBT ライン)



講評 及川

構図の良さで、奥行き感と広がり感の両方が表現された写真になっています。画面中の情報量は多いですが、手前の黄色とオレンジ色が効果的に配置されているため散漫な印象を与えない作品に仕上がりました。

佳作

小寺 克茂 / Katsushige Kotera
大阪大学 / Osaka University

KOTO 実験の検出器は三部に分かれた巨大高真空タンクの中に封入されている。昨年の秋から冬にかけて、真空を破り、三部に分離し、検出器のアップグレードを行った。100トンの巨大真空タンクは鉄レールの上に乗っており、ウィンチでゆっくりと動かす。この写真は分かれていたメイン部と下流キャップ部をもどし合わせている時の様子で、サブミリの精度でじわじわと位置を合わせながら、高密度に配置された精密機器が位置ズレなどで破壊されないように、細心の注意をもって動かしている。我々の実験は研究者だけでなく、多くの人々、仕事仲間の協力を得て前へと進んで行く。(2019/01/08 撮影)



講評 及川

表情は見えていませんが、作業者の方々の真剣さが想像できる写真です。画面上部のシルバー分の質感再現が見事なため、現場感がひしひしと伝わる作品となりました。

鉛ガラスカロリメータ

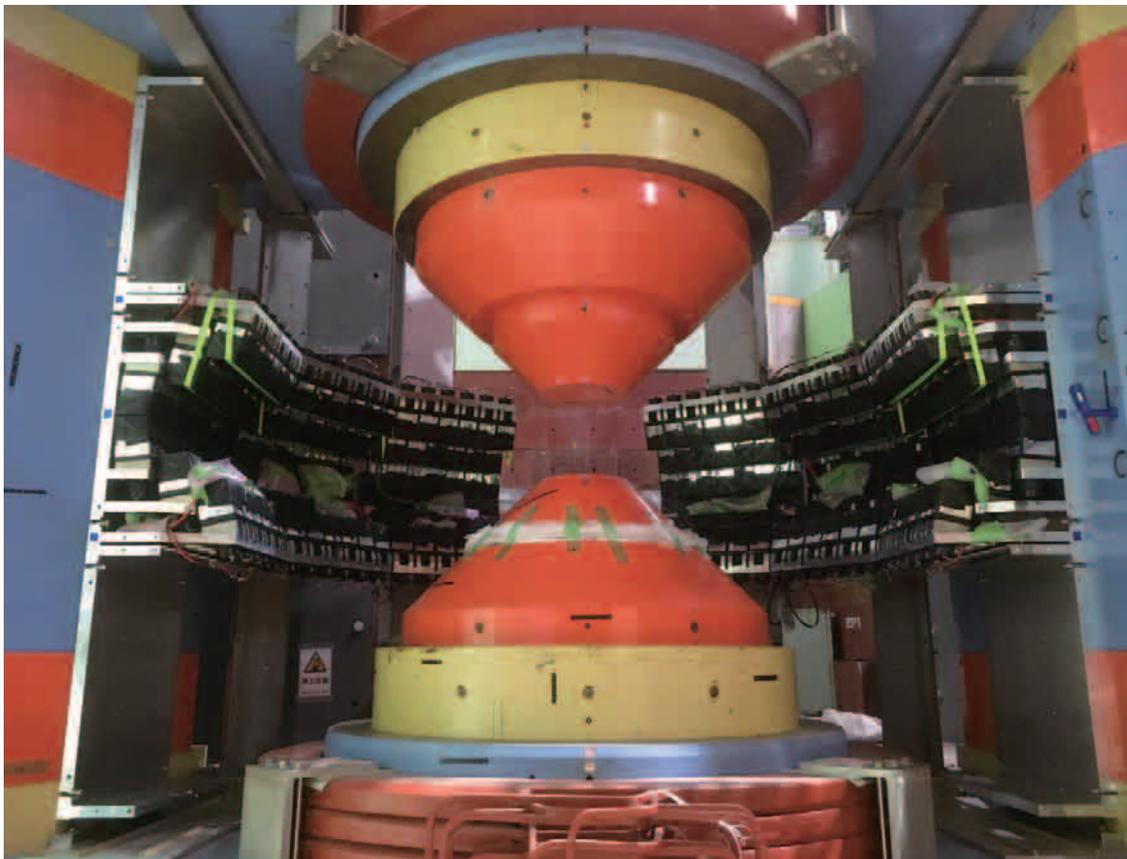
The Lead Glass calorimeter for J-PARC E16 experiment

佳作

足利 紗希子 / Sakiko Ashikaga

京都大学 / Kyoto University

鉛ガラスカロリメータの設置完了時の写真。ハドロンホール高運動量ビームラインにおける実験の第一歩だといえる。



講評 及川

カラフルな色合いが目を引く作品です。色味と共に造形の面白さが表現されています。アングルにもう一工夫があると更に迫力のある写真になったと思います。

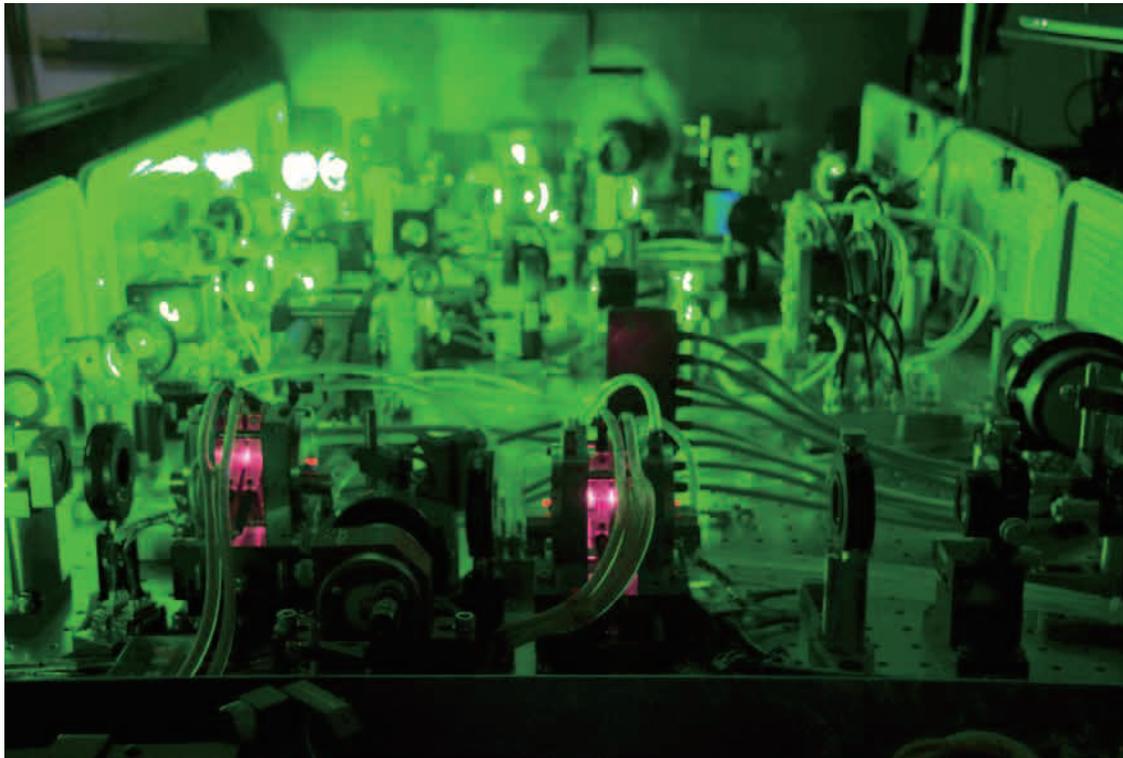
近赤外から紫外まで

from IR to UV

佳作

大石 裕 / Yu Ohishi

ミュオンセクション / Muon Science Section



紫外レーザー光を発生させる為の近赤外全固体レーザー増幅器と非線形波長変換素子を組み合わせたレーザーシステムである。

手前の赤く見えるのは近赤外光増幅器内部で使われる半導体レーザー光、緑色は紫外光を発生させる途中で発生する光である。

講評 及川

サイバーチックな雰囲気が全面に押し出されている作品です。緑色の中に赤色のポイントが良い位置に入っており、画面の中の主役が明確に伝わる写真として仕上がっています。

Scientist at S line, MLF

Scientist at S line, MLF

佳作

中村 惇平 / Jumpei Nakamura

ミュオンセクション / Muon Science Section

ミュオンSラインの遮蔽体の中で、スリットの調査を行っている。



講評 及川

ライティングの効果がたいへん良い作品です。まるで舞台のスポットライトを浴びるかのような、暗部に浮かび上がる人物と機器が写真の主役を明確に表現できています。

2018

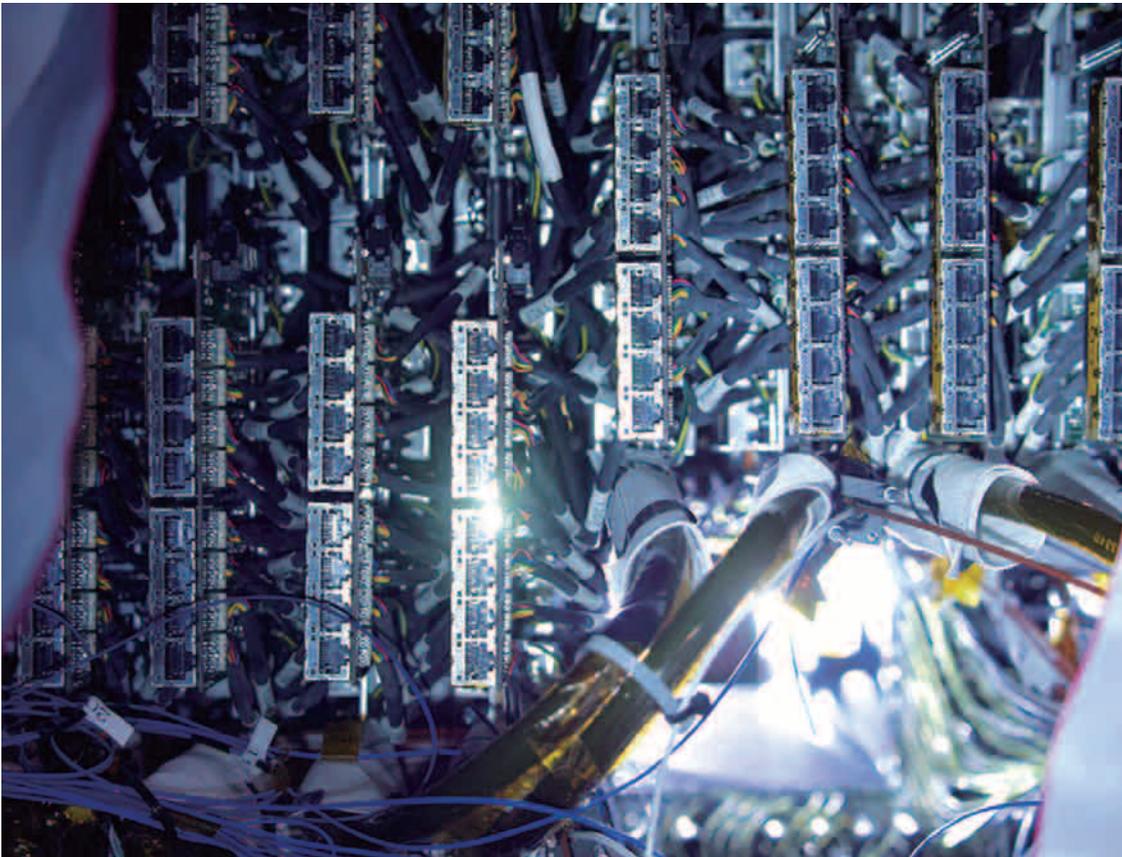
HDホールのKOTO実験の ディテクタの回路部分

KOTO circuits, output connectors

最優秀賞

魚田 雅彦 / Masahiko Uota

加速器第五セクション / Accelerator Section V



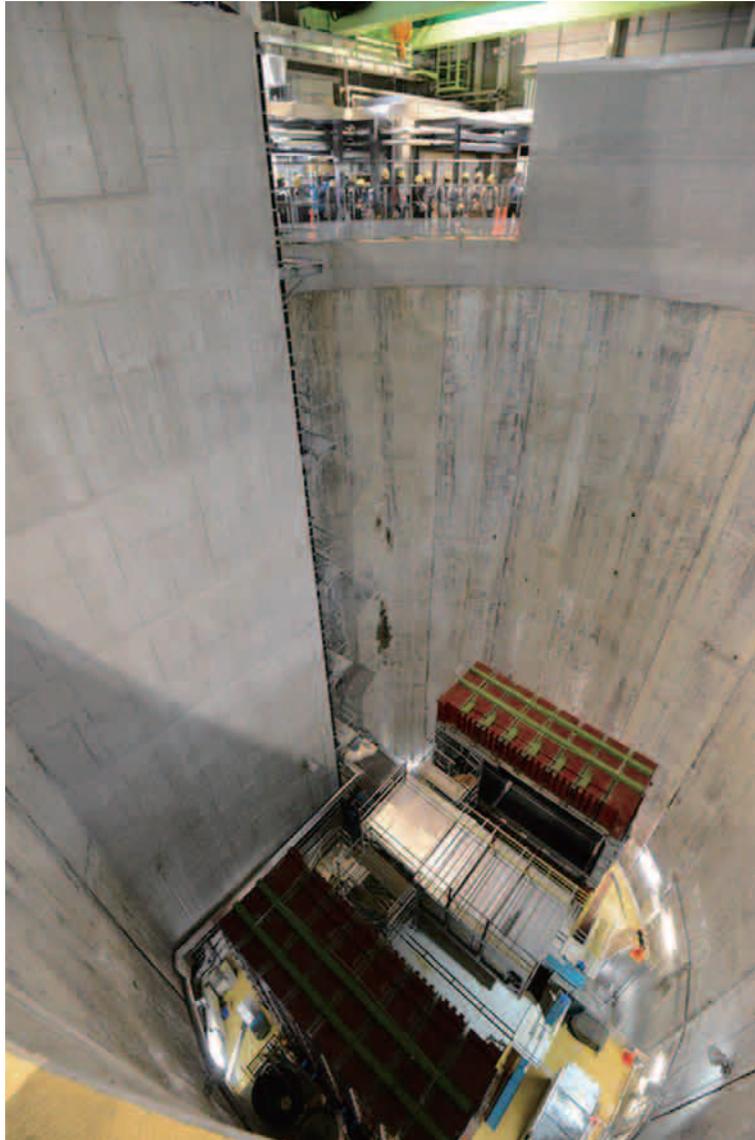
ニュートリノ前置検出器 の見学

Visitor at Neutrino Experimental Facility

優秀賞

伊藤 浩 / Hiroshi Ito

広報セクション / PR Section



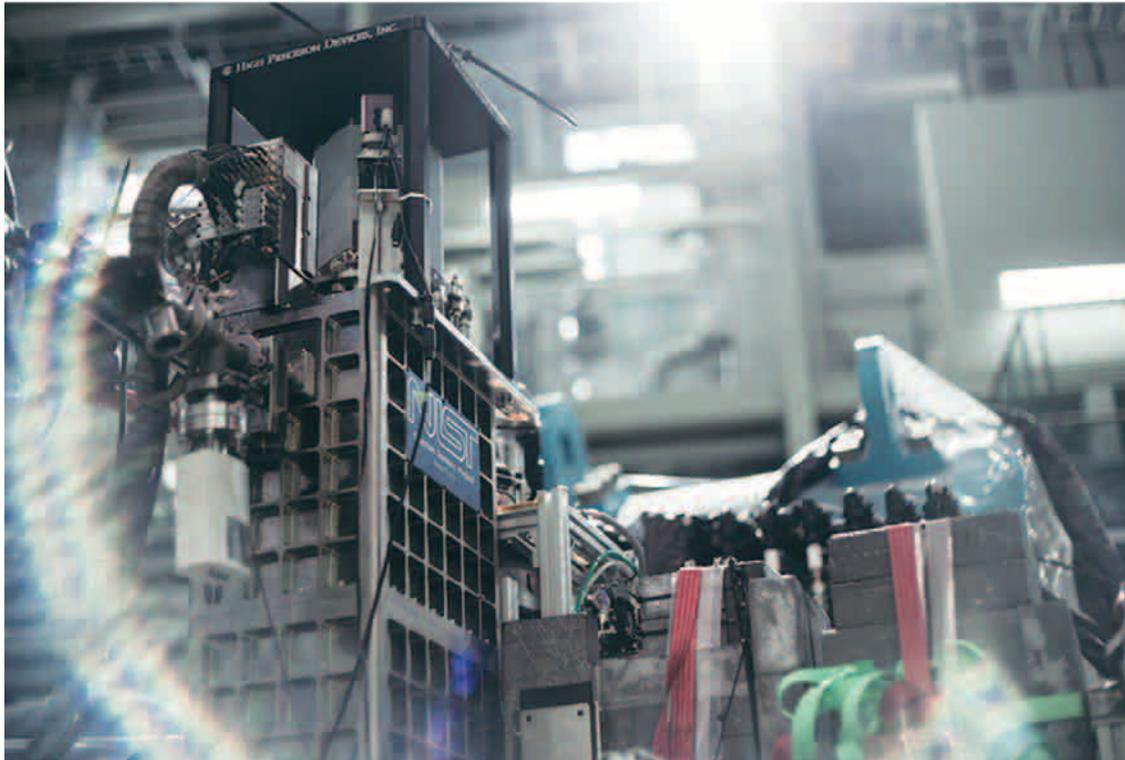
極低温の世界

Extremely cold world

優秀賞

布村 光兎 / Koji Nunomura

首都大学東京修士2年 / Tokyo Metropolitan University



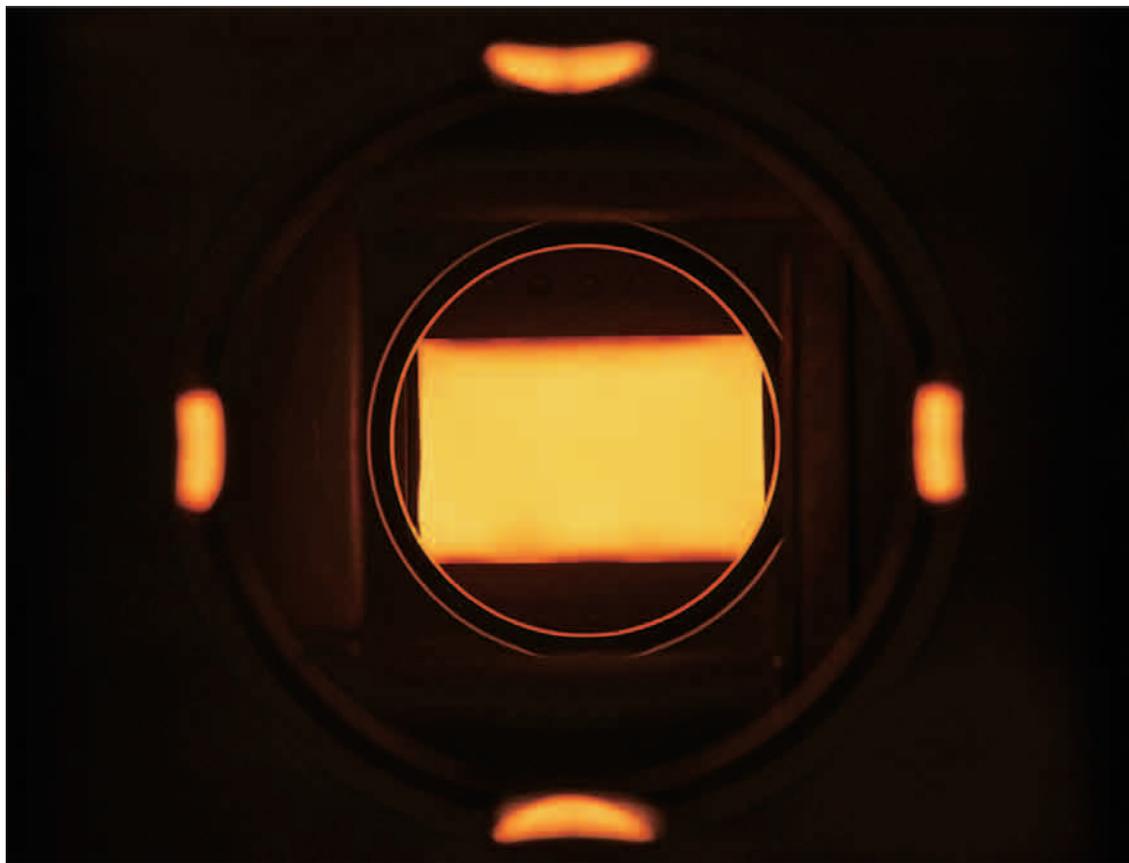
2300°Cの泉

Muonium fountain

佳作

大石 裕 / Yu Ohishi

ミュオンセクション / Muon Science Section



MR アボードラインΦ 800 mm
ダクト内面と 35 m 先の
プロファイルモニタ

Inner surface of the abort beamline pipe with
multiple reflections from a profile monitor 35 meters away.



佳作

魚田 雅彦 / Masahiko Uota

加速器第五セクション / Accelerator Section V

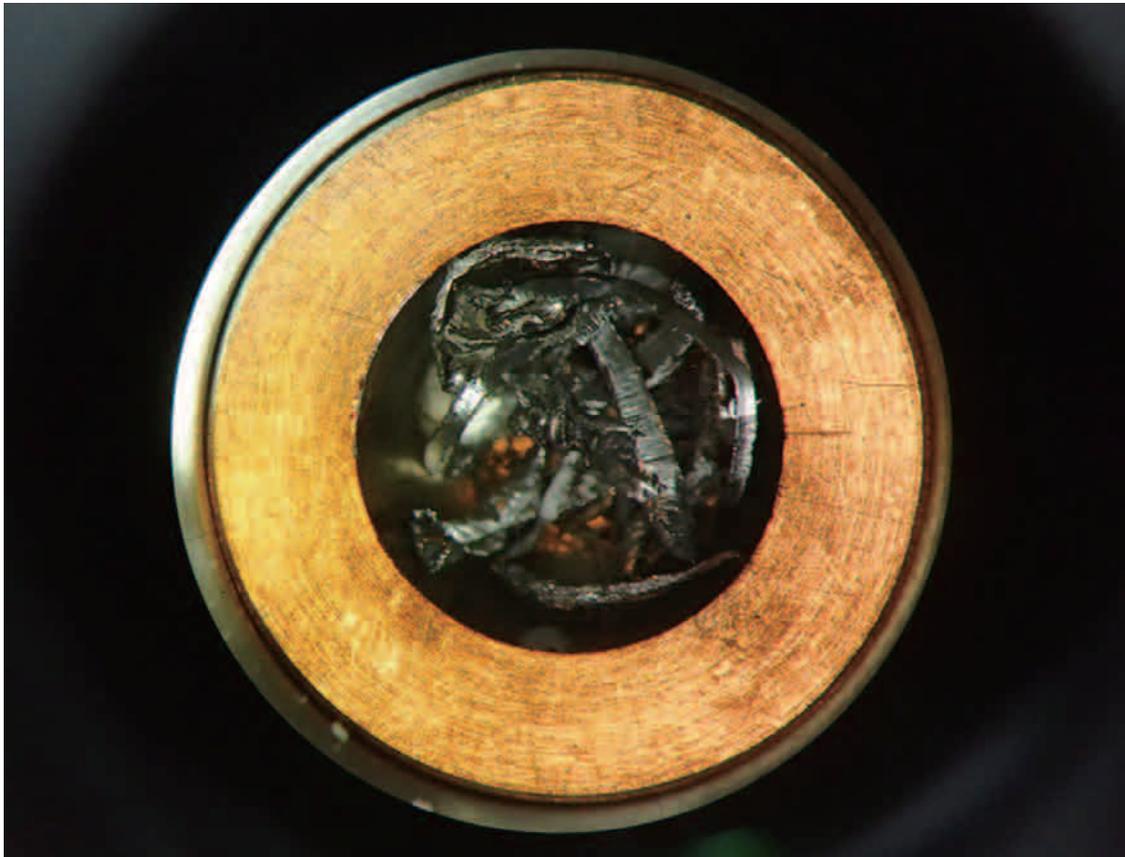
受精の瞬間

The_moment_of_fertilization

佳作

服部 高典 / Takanori Hattori

中性子利用セクション / Neutron Science Section



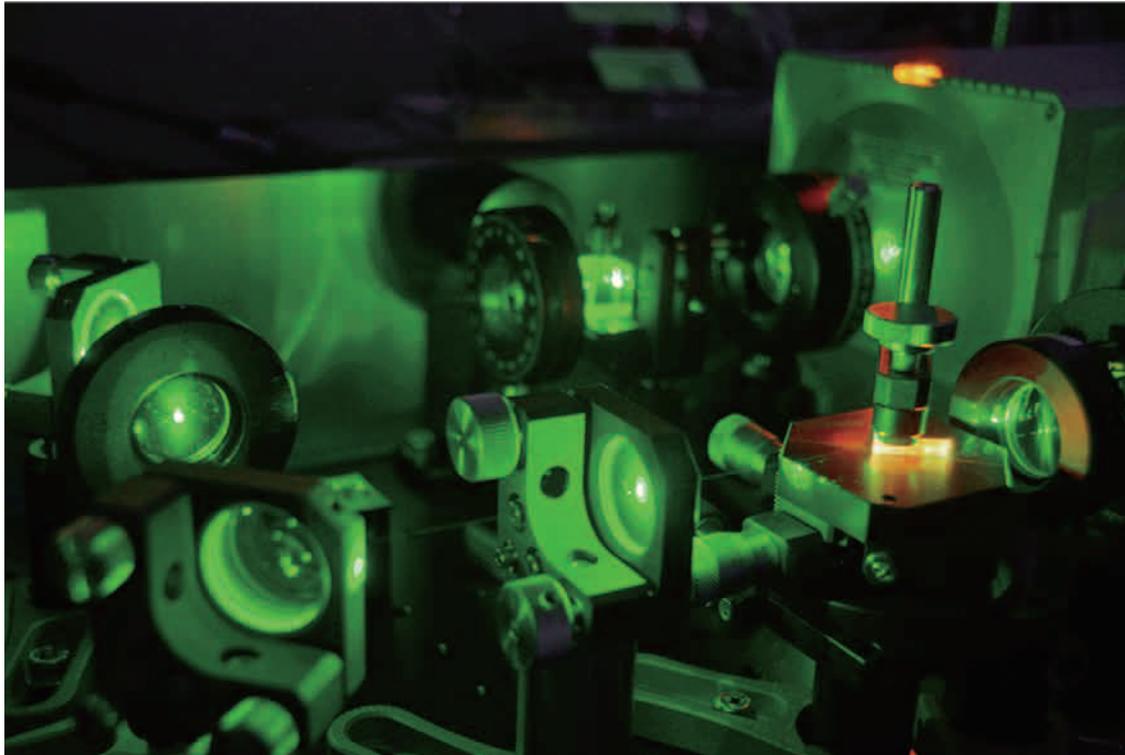
輝くサファイヤ

Exciting Tisapphire Excitation

佳作

大石 裕 / Yu Ohishi

ミュオンセクション / Muon Science Section



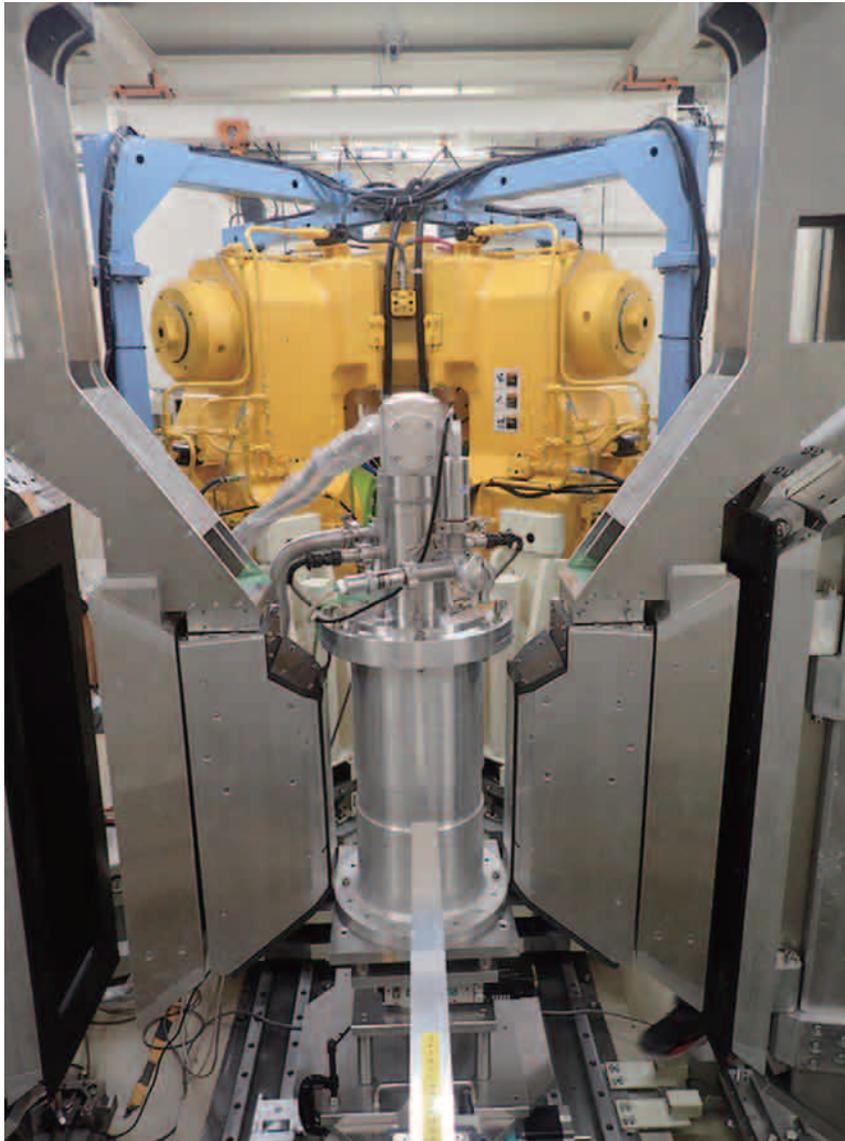
チョウチョを狙うカマキリ

Mantis trying to hunt a butterfly

佳作

服部 高典 / Takanori Hattori

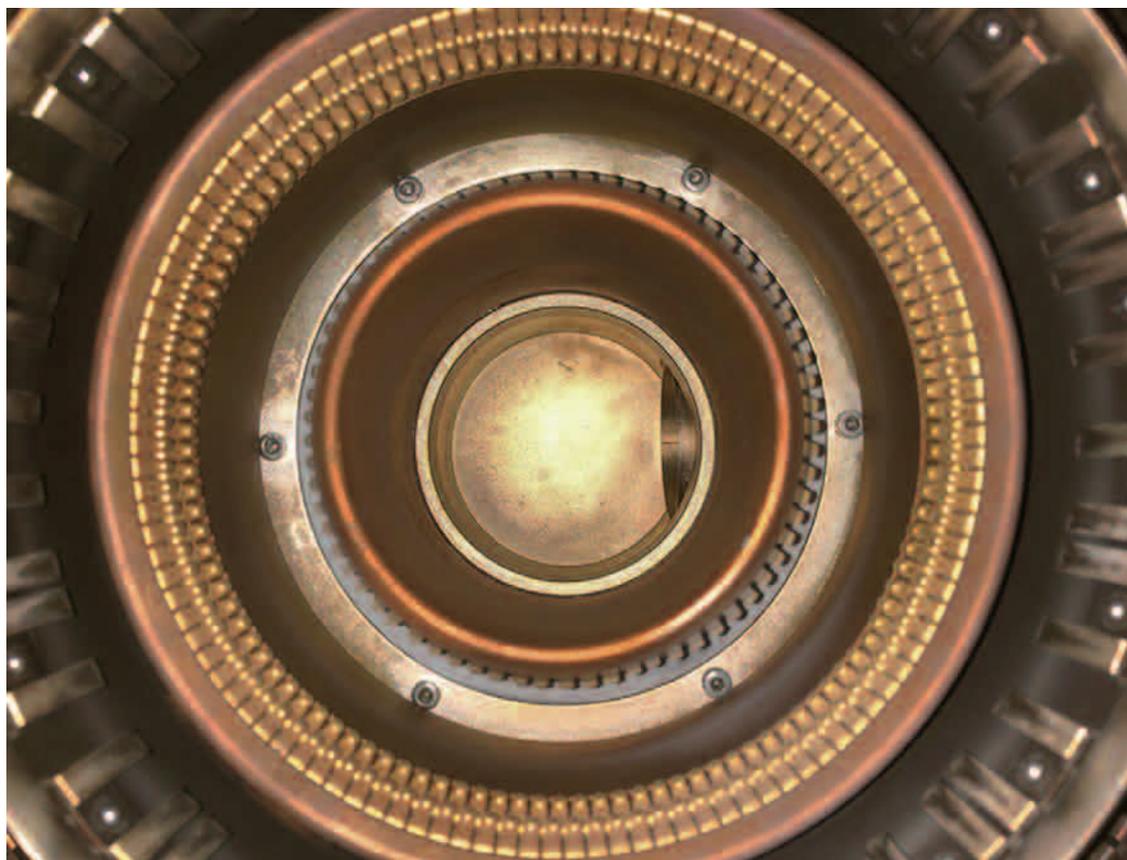
中性子利用セクション / Neutron Science Section



佳作

大森 千広 / Chihiro Omori

加速器第五セクション / Accelerator Section V



正にスーパーミラー

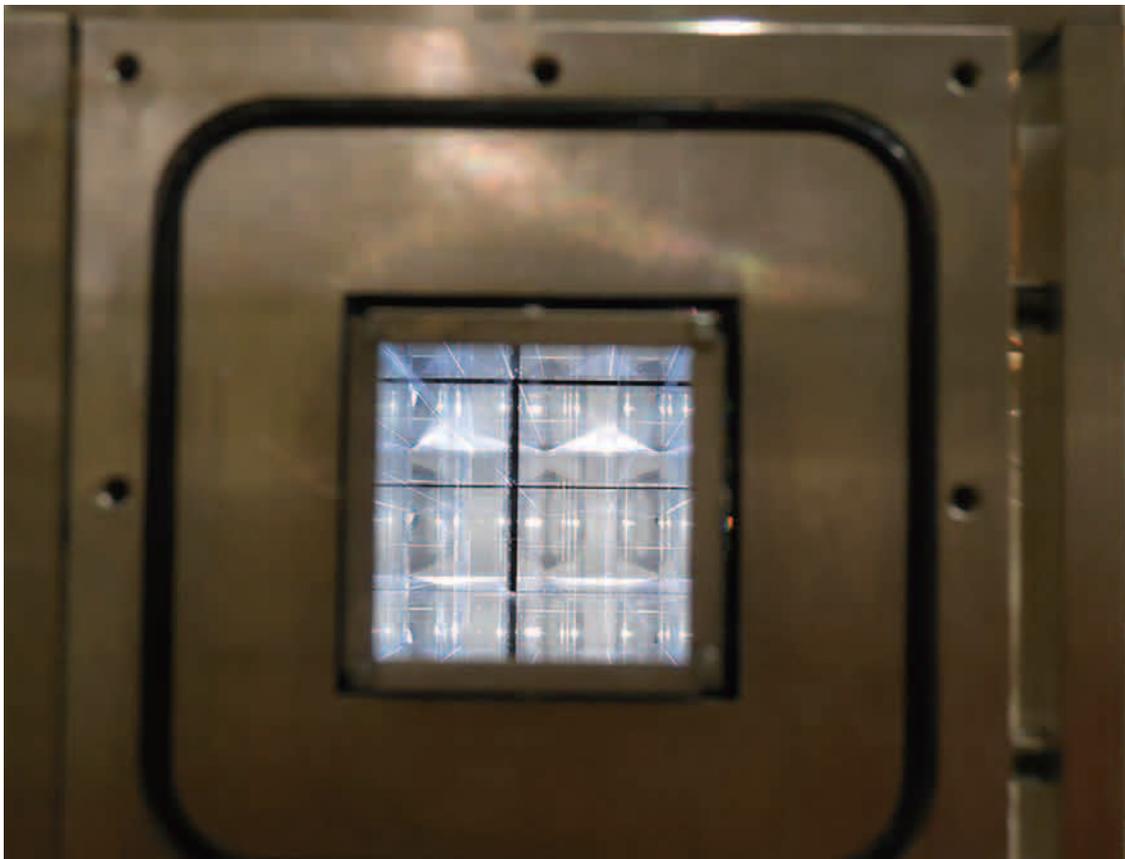
kaleidoscope?, illusion??. BL01 neutron supermirrors!

佳作

蒲沢 和也 / Kazuya Kamazawa

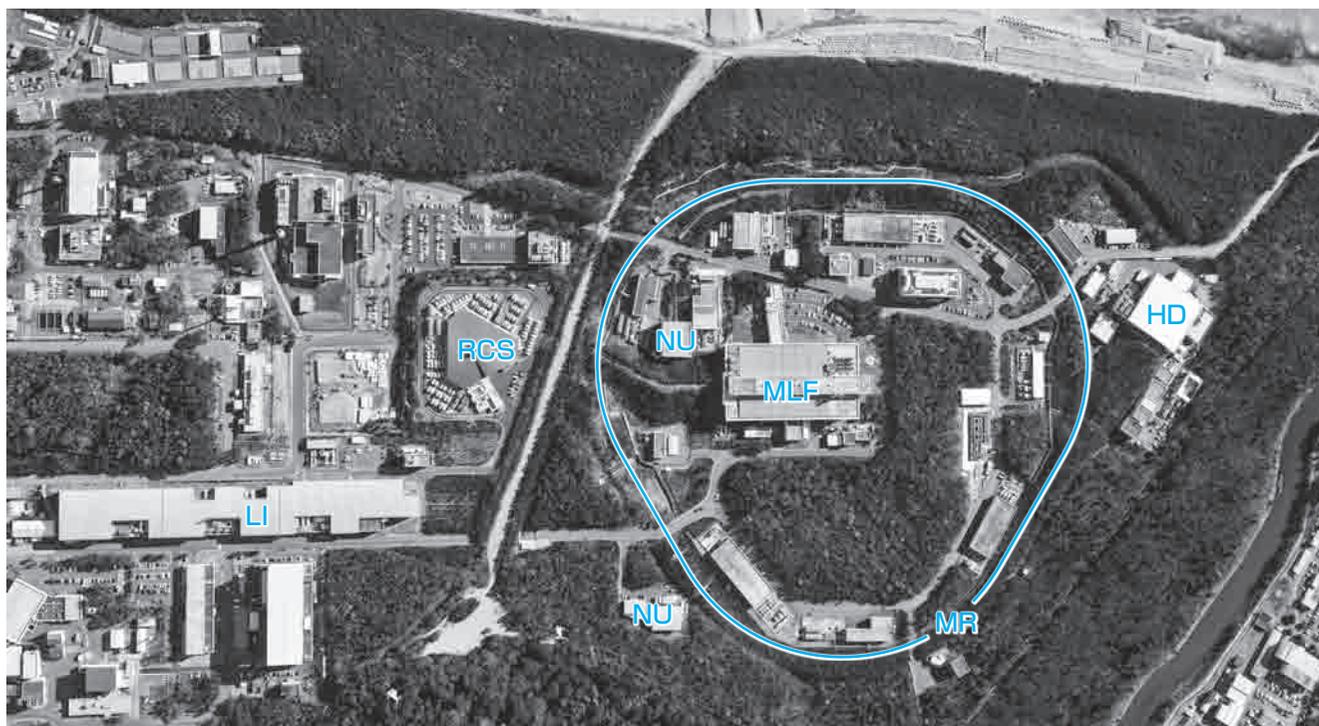
総合科学研究機構 (CROSS)

/ Comprehensive Research Organization for Science and Society(CROSS)



撮影場所

Shooting locations



- LI リニアック
- RCS 3 GeV シンクロトロン
- MR メインリングシンクロトロン
- NU ニュートリノ実験施設
- MLF 物質・生命科学実験施設
- HD ハドロン実験施設

(番号は、ページを表わす)

5 花形	Inside of a floral shaped beam duct	MLF	17 一人 in タンク	Person in Tank	NU	29 HD ホールの KOTO 実験の ディテクタの回路部分	KOTO circuits, output connectors	HD
6 下流から上流を覗く	Beautiful view from the downstream	LI	18 深淵	Abyss	MLF	30 ニュートリノ前置検出器の見学	Visitor at Neutrino Experimental Facility	NU
7 高周波四重極加速器 RFQ	Radio-frequency quadrupole, RFQ	LI	19 中性子実験試料のアライメント	Aligning sample for a neutron experiment	MLF	31 極低温の世界	Extremely cold world	HD
8 コイルの間隙から覗く実験試料	Looking into the experimental sample through the gap in the coil	MLF	20 高温変形	Deformation at high temperature	MLF	32 2300℃の泉	Muonium fountain	MLF
9 匠と弟子	Takumi and deshi (master and disciple)	MLF	21 laser beam	laser beam	MR	33 MRアポートラインΦ 800 mm ダクト内面と 35 m 先のプロ ファイルモニタ	Inner surface of the abort beamline pipe with multiple reflections from a profile monitor 35 meters away.	MR
10 シンチ	Scinti ♥	MLF	22 3 GeV ビームの分岐点	The branch point from RCS to 3-N BT and 3-50 BT (White balance adjustment)	RCS	34 受精の瞬間	The moment of fertilization	MLF
11 検出器が見ている	Line of sight from the detector	MLF	23 仕事仲間	working colleagues	HD	35 輝くサファイヤ	Exciting Tisapphire Excitation	MLF
12 1 MW 運転中のミュオン生成 標的	Muon production target at 1-MW operation	MLF	24 鉛ガラスカロリメータ	The Lead Glass calorimeter for J-PARC E16 experiment	HD	36 チョウチョを狙うカマキリ	Mantis trying to hunt a butterfly	MLF
13 J-PARC の灯の源流	Source of Lights in the J-PARC	LI	25 近赤外から紫外まで	from IR to UV	MLF	37 支える	Contactors	MR
14 ファイバートラッカー	Fiber tracker	HD	26 Scientist at S line, MLF	Scientist at S line, MLF	MLF	38 正にスーパーミラー	kaleidoscope?, illusion??, BL01 neutron supermirrors!	MLF

特別審査員紹介



及川 隆史 / Takashi Oikawa

茨城県日立市生まれ
東京写真専門学校（現 東京ビジュアルアーツ）卒
フリーランスのフォトグラファーとして、商品・人物・スポーツなど幅広い被写体を対象に、広告、雑誌、新聞、Webサイト等の撮影で活動。また、グループ展を中心に写真展の経験多数あり。

フォトスペースオイカワ代表
（公社）日本広告写真家協会会員
IPA 茨城写真家協会会員
専門学校 文化デザイナー学院 非常勤講師



磯崎 寛也 / Hiroya Isozaki

1965 年茨城県日立市生まれ
水戸第一高等学校、早稲田大学第一文学部卒
1989 年～ 95 年 西武百貨店
2000 年 （株）アイ・ティ・エイチを創立 代表取締役
2007 年～ 16 年 （株）N & A 代表
2018 年～ ARTS ISOZAKI 創立
2019 年～ 茨城電機工業（株）代表取締役に就任
2019 年 （株）クォンタム フラワーズ & フーズ創立 CEO に就任

十和田市現代美術館をプロデュース ゼネラルマネージャー
アートアンドパブリック協会理事
茨城県経営者協会参与

J-PARC Photo Book

J-PARC フォトコンテスト作品集 2020-2018

発行日 令和3年3月 発行 J-PARC センター広報セクション

連絡先 〒319-1195 茨城県那珂郡東海村大字白方2-4 TEL 029-284-4578

